



2012年5月 第10巻第5号

かく語りき—聖人の言葉

「バクタの安心立命の境地とは人知を越えており、無類の価値がある」

(スワミー・ヴィヴェーカーナンダ)

「解脱の助けとなるもののうち、最も高いところにあるのが信仰だ。信仰とは、自己の本性の探究である」

(シャンカラ)

今月の目次

- ・かく語りき—聖人の言葉
- ・今月の予定
- ・「シュリー・ラーマクリシュナの預言者としての独自性」
第175回シュリー・ラーマクリシュナ生誕記念祝賀会および新別館落成式
来賓スワミー・ジョーティルーパーナンダ師による講話
- ・忘れられない物語
- ・今月の思想

今月の予定

ハタ・ヨーガ・クラス

6月2日(土)、9日(土)、16日(土)、
23日(土)、30日(土) 11:00~12:30

場所：逗子本館 *体験レッスンもできます。

お問い合わせ：逗子協会

逗子例会

6月17日(日) 10:30

場所：協会新館(アネックス)

特別講演：長寿院 第三十三世住職 篠原鋭一住職

テーマ：主ブッダの説いた奉仕の教えの
実践

10:30 瞑想

11:00 仏教聖典朗読・輪読

11:15 講演

12:30 昼食(プラサード)

14:45 輪読・朗読

インド巡礼の旅 写真鑑賞
(三田村賢一氏)

16:30 お茶

皆様のご参加をお待ちしております！

夏季戸外リトリートのお知らせ

2012年7月27日(金) 17:00~

29日(日) 17:00

場所：東京都青梅市御岳山
宿坊「能保利」 *詳細はHPにて
お問い合わせ：泉田シャンティ
shanti.k@r3.dion.ne.jp

「シュリー・ラーマクリシュナの預言者としての独自性」 スワミー・ジョーティルーパーナンダジ

(以下の文章は、3月の逗子例会で開催された第175回シュリー・ラーマクリシュナ生誕記念祝賀会および新別館落成式の来賓である、ロシアのスワミー・ジョーティルーパーナンダジによる講話です)



預言者とは、神の意志を明らかにし、あらゆる苦しみから人類を救済する道を見い出す者である。クリシュナ、仏陀、イエス・キリスト、モハメッドなどは預言者である。私たちの時代のシュリー・ラーマクリシュナもインドの預言者として認識されている。彼らは、自らの人生と教えにより具体的な道を示し、人類を神すなわち究極の真実へと導く。その時代や地域での問題を解

決するために、たとえその教えが永遠の真理にもとづくものでも、特定の道を示さなければならなかった。シュリー・ラーマクリシュナが出現したのは、技術が発展し、遠く離れた人たちがまるで隣人のように世界中の人々が身近に感じられるようになった時代である。今やひとつの国で起きた問題は、その国民だけでなく他の国々の人々にも影響を与える。このことからみれば、シュリー・ラーマクリシュナの人生と彼のメッセージは、驚くべきことに、現在の我々の問題の解決においてすべての人類を対象としていることがわかる。ここにシュリー・ラーマクリシュナならではの明白な特徴があることに気づかされる。

私の意見では、彼の体験として最も効力のあるものは、宗教の調和を発見したことであり、特にこれこそは、現代のように異なる宗教同士が相互に破壊しあう状況から人類を救うために最も必要とされていることである。古代から現代まで調べてみれば、異なる既存の宗教を自ら実践し、すべての宗教は、いかなる名前で呼ぼうとも同じ神への道を導くものだと確信した者は、シュリー・ラーマクリシュナだけなのである。

さらにシュリー・ラーマクリシュナが解決した大きな問題は、神、自然、生命ある存在に対する見解についてであ

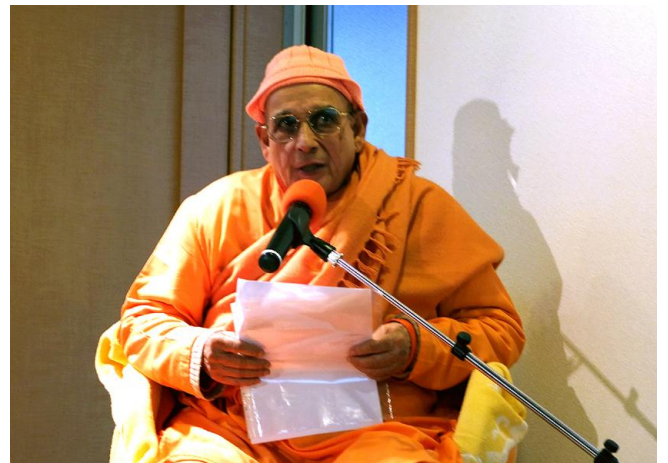
は女性を彼の霊的な指導者、グルとし、バイラヴィ・ブラフマニと呼んだ。それだけでは充分でなく、人生で最も重要なイベントである彼の結婚についてみななければならない。

イエス・キリストのような預言者は結婚しなかった。学識豊富な学者であり、預言者でもあるシャンカラチャーリヤも結婚しなかった。仏陀やシュリー・チャイタニヤは、より偉大な目的のために妻のもとを去らなければならなかった。このような事柄により、女性は霊的な歩みには障害になるという誤解が人々の間で深まるばかりとなってしまった。しかし、シュリー・ラーマクリシュナの場合は違ったのだ。

彼はサーラダ・デヴィと結婚し、霊的な存在である聖なる母として愛し、彼の霊的な活動の伴侶として彼女を教え、最終的には彼の霊的な職務のすべての責任を彼女に託し、それを彼女は最後まで上手に維持したのだ。それにより彼女は、社会における女性の最高の地位を示す模範となったのだ。ラーマクリシュナの妻を聖なる母として崇拝する例は、私たちすべてにとってユニークなものである。インドではシュリー・ラーマクリシュナの例は、男性の女性に対する姿勢に素早い変化をもたらした確実な地歩を築くようになった特筆すべき出来事である。

シュリー・ラーマクリシュナは、完全に肉欲と金への執着から自らを解放した。彼の人生は、これらに強く惹かれる心を支配することによってのみ最高の平和と喜びに達成できることを証明した。これらから自分を解放すればするほど、より大きな平和と喜びで心が満たされるようになる。

現代の世界は、すべての宗教がなんらかの形で提唱するこの教えを、忘れ去っているようにみえる。私たちの惑星は、金と物質的な快樂の狂った追求の犠牲となっている。肉欲と拝金主義から生まれた暴力や犯罪により、何百万人もの人々の心は恐れと不安でいっぱいだ。私たちにはそのような偶然から逃れる術はない。



シュリー・ラーマクリシュナの人生は間違った方向に向いた人生を正しい方向に促す指針である。正しい方法で人生を楽しみ、好きなだけ金儲けをすればよい、ただしその前に自らを肉欲と貪欲に惹かれる強烈な誘惑から解放すべきである。ラーマクリシュナにとって世俗とは、肉欲と金という二つの言

葉に集約される。霊的な人生のみが平和と至福をもたらし、これらに強く惹かれる心を支配することによってのみ人は霊的になれるのだ。

おめでたい機会や巡礼地などで貧しい人たちや困窮者に寄付をすること、または他の方法で支援することは、世界のあらゆる宗教で極めて重要な霊的な実践とされている。現在の利己的な世界で多くの人々は、自分の慈悲深い行為から、霊的な恩恵を受けることができないでいる。内なる成長に必要な謙虚な姿勢ではなく、むしろそれがエゴの増大になっている。

シュリー・ラーマクリシュナは、この奉仕という行為そのものに新しい局面をもたらした。霊的な気持ちになると彼は言った。「生き物に慈悲を示しなさい！あなたは何者だ、つまらない生き物なんかは慈悲を示せだと？いやちがう、それは慈悲ではない、生き物に内在する神への奉仕なのだ。」これが他人に奉仕するとき、持つべき姿勢なのである。体という神殿に神は、内なる管理者として存在する。それゆえに他者に対する奉仕は、神への奉仕となる。

この姿勢を念頭におけば、困窮者に奉仕する者の心は向上する。そして奉仕を受ける者も、物質的な恩恵を受けるのみでなく、彼自身の中にある高次の存在が目覚めさせられるのだ。シュリ

ー・ラーマクリシュナのこの教えを手がかりに、彼の偉大なる弟子、スワミー・ヴィヴェーカーナンダは後年、貧しい人や困窮者、世界中のあらゆる階級の虐げられた人々に全面的な奉仕を行うために、そしてこれを神に至る道のひとつとして、博愛的な組織であるラーマクリシュナ・ミッションを設立した。

現代社会に新しい光をもたらすために計り知れないほど貴重な貢献をしたシュリー・ラーマクリシュナを世界がより深く理解するときが、それ自らの歩調で近づいてきている。



忘れられない物語

次の町

ある日、田舎のガソリンスタンドで、男が車を止め店員に尋ねた。「次の町の人とはどんな人たちかね」

店員は言った。「前の町の人たちはどうでしたか」

「ひどい奴らさ。失礼で、冷たくて、けんか腰で、ぶっきらぼうで、感じが悪くて…時間を尋ねても教えてくれなかったよ」

「そうでしたか」店員は言った。「残念ながら、次の町も全く同じような人たちですよ」

少しして、別の車が入ってきた。この車も同じ方向に向かっていた。運転している男が尋ねた。「次の町の人はどうな人たちかな」

店員は言った。「前の町の人たちはどうでしたか」

「それがね、とてもいい人たちだったんだ」男は答えた。「人なつこくて、温かくて、親切で、気が長くて、優しく…見ず知らずの人間をわざわざ助けてくれるんだよ」

「そうでしたか」店員は言った。「よかったですね。次の町も全く同じような人たちですよ」

(よく知られているたとえ話・出典不明)

今月の思想

無神論とは
昨日の信仰を解き明かして
明日の信仰への道を開くことである。

(ロマン・ロラン)

発行：日本ヴェーダーンタ協会

249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1

Tel: 046-873-0428

Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: info@vedanta.jp